

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価			
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策	
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	黒門キャリアプランやコース制について満足していると答える生徒が90%以上である。	文理、コース、科目選択の説明会や定期的に行われる面談を通して、生徒・保護者へ説明し、本校の教育方針の理解を深める。	A 100%	C 生85% 保88%	生徒指導部や進路指導部と協力して、本校の教育活動の共通理解を図る。組織的な指導体制についての検討を行う。	A 100%	B 生90% 保90%	コース制のあり方についての検討を始めている。生徒の進路実現に向けてどのような指導体制がよいのかを職員全体で考えていく。	
		総合的な探究の時間（課題解決型インターンシップ、探究活動など）に主体的に取り組んだと答える生徒が80%以上である。	自分で考えて就業体験先や探究活動のテーマを設定できるように事前指導を行う。全体計画を説明し、生徒に目標を持って行動させる。	A 100%	A 生95% 保86%	探究部と各学年が協力して計画的な指導を行い、生徒は主体的に探究活動に取り組むことができている。保護者にも活動内容が伝わる工夫を検討する。	A 100%	A 生95% 保91%	インターンシップと探究活動の関連性や他の教育活動の関連性を明確にし、探究活動のさらなる充実を図りたい。	
	2 学習と特別活動（部活動・ボランティア等）の両立を目指した教育を推進していますか。	学習外の活動を主体的に行えたと答える生徒が80%以上である。	特別活動、部活動、ボランティア活動を生徒主体で活動できるように計画し、生徒の活躍の場を設ける。	A 94%	B 生80% 保85%	学習外における活動の意義を周知し、生徒の活動を促す。さらに活動内容が充実するような工夫を検討する。	A 98%	B 生78% 保84%	速やかな情報提供ができ、活動状況が保護者に伝わった。各活動の意味を明確にし、生徒の活動を充実させたい。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	主体的に学習に取り組んでいると答える生徒が80%以上である。	シラバスを活用し、計画的に授業を進める。授業の目的を明確にし、生徒に主体的な学習を促す。必要に応じてICTを活用し、生徒の理解を深める工夫をする。	A 90%	C 生79% 保74%	指導内容・方法の適正化をはかり、生徒が充実感を得られる授業改善を行う。学習方法の段階的な指導についての検討を行い、育てる指導につなげる。	A 84%	B 生81% 保78%	ICTを活用した学習活動の工夫を計り、生徒の取り組みやすい学習環境を継続して検討していきたい。また生徒の学習者としての成長のめられる学習改善を行っていきたい。	
		4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	進路目標に応じた学力を身につけたと自己評価している生徒が80%以上である。	各教職員が授業改善に努めるとともに、サクセスシステムの取組を着実に実行し、生徒の進路実現を可能にする学力を身につけさせる。	A 95%	C 生74% 保68%	各教科で授業改善に取り組むとともに、進路指導部では今後の課外補習や黒門道場、自主学習会等のあり方を見直していく。	A 91%	B 生79% 保76%	各教科で授業改善に取り組んでいただくとともに、効果的な課外補習や自主学習会のあり方に加え、課題や家庭学習についても計画的・組織的に取り組めるよう検討する。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	企画会議、学年会議、各分掌会議等でえた生徒に関する情報を生徒指導部生活係会議（月3回実施）で集約する。	企画会議、学年会議、生活係会議はそれぞれ週一度程度計画する。	A 100%	B 生86% 保78%	引き続き、定期的・計画的に情報交換を行い、早期発見と早期対策に努める。	A 100%	B 生85% 保81%	定期的・計画的に会議等を行い、組織的・継続的な指導を行うことができた。引き続き、早期発見と早期対策に努める。	
		6 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	平常時においても、いじめ防止対策委員会を月1回開催し、問題の早期発見、早期解決、組織的な対応に努める。	保健教育相談部、学年との連携を密に行う。その情報を委員会で共有し、場合によっては外部機関の協力を願う。	A 100%	A 生98% 保87%	日常の学校生活のあらゆる機会・場面を通じて、より良い人間関係の構築につながるよう心掛ける。コロナ禍における生徒の変化に敏感に対応する。	A 100%	A 生98% 保87%	面談やアンケートなどで表面化した事例に対しては迅速に対応できた。それ以外の声にならない生徒の声をいかに拾うことができるかが、課題と思われる。
		7 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	生徒の出席率が95%以上である。	常に生徒の出席状況、SC利用状況、保健室利用状況、図書館利用状況等を確認し、問題の早期発見に努める。保護者連絡を密に行い、家庭との協力をはかる。	A 92%	B 生82% 保85%	夏期休業明けに生活の乱れを生じている生徒が見られる。また、メンタル不調による欠席者もいる。多方面からのアプローチで支援を続けていく。	A 93%	B 生87% 保87%	生活習慣の乱れやメンタル不調を訴える生徒が増加している。約3年にわたるコロナ禍の生活の影響が大きいと思われる。手帳の記述や面談、普段の生活の中から、心の変化を早期に捉える努力を怠らないようにする。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	8 計画的な指導を行っていますか。	ドリームプランの様々な企画（課題解決型インターンシップ、探究活動など）が、自分の進路を考えるために役立つと思う生徒が80%以上である。	ドリームプランの各企画の意義を理解させる指導を十分に行い、生徒が自身の進路について主体的に考え、具体的な方向性を持つよう取り組みを展開する。	A 98%	A 生82% 保85%	現状の黒門キャリアプランをベースに、外部講師の助言や各学年の教員・生徒の意見（課題解決型インターンシップや探究活動発表会に対する感想）などを分析し、積極的に改善していく。	A 100%	A 生84% 保87%	現状の黒門キャリアプランをベースに、外部講師の助言や各学年の教員・生徒の意見（課題解決型インターンシップや探究活動発表会に対する感想）などを踏まえ、効果的なカリキュラムを編成できた。	
		9 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	進路実現に向けて、計画的に学習に取り組んでいる生徒が80%以上である。	生徒に関わる全ての教職員が進路実現のための共通した認識を持つとともに、面談等を通じて保護者と情報を共有し、授業や家庭学習、課外補習等に主体的に取り組ませる。	B 87%	C 生67% 保65%	職員の共通認識のもとに、課外補習等の改善や生徒が記録する黒門手帳のあり方、模擬試験等の効果的な事後活用法の検討など、生徒が取り組みやすい形に改善していく。	B 79%	B 生74% 保72%	進路実現に効果的な授業、課題、課外補習について、教科や学年とともに検討する機会を設ける。既存の取組の検討・取捨選択とともに、新たな方策の可能性も探る。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	学校の様子や生徒の様子がよくわかると考える保護者が80%以上である。	新聞部、各分掌と連携を図りWebページの充実を図る。保護者、生徒にはHPの更新をメールで知らせ、情報提供と閲覧数を増やしていく。	A 95%	C 生76% 保67%	三者面談で保護者から、メール連絡が頻繁にあり、ありがたいという声があった。今後も効果的的確な情報発信を心がけていきたい。	A 91%	B 生82% 保79%	目標の数値には届かなかったが、ほぼそれに近い結果を得ることができた。メールは手軽で便利なツールなので、今後も大いに活用していきたい。	
		『黒門通信』を年間12回発行し、中学生向けの『富高通信』も月1号程度作成する。	従来の『富高通信』を『黒門通信』として保護者向けのものとするとともに、中学生向けの『富高通信』も作成し、ともにHP上に掲載する。	A 84%	C 生79% 保78%	『黒門通信』は今のところ月1号作成できている。今後も中学生に向けて、本校をより理解してもらえるような内容を企画し、タイムリーな情報提供をしていきたい。	A 93%	A 生81% 保75%	発行回数や頻度の目標は達成することができたが大事な内容は内容だと思うので、両通信やメール、HPそれぞれの役割や対象、特性などを常に意識し、迅速で効果的な内容を心がけていきたい。	
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	1 ICTを活用した指導を行っていますか。	ICT機器を授業で効果的に使用できている職員を80%以上にする。	グーグルドライブ内に共有フォルダを作成し、生徒・教員間のファイルのやり取りをスムーズにする。また、ICT機器の管理をしっかりと行い、機器の不調や、付属品の不足ができる限り起こらないようにする。	C 76%	A 生90% 保86%	グーグルドライブ内の共有フォルダについては、効果的に使用している先生もいて、成功であったといえる。職員のアンケートの数値が低いので、他にも活用方法の案があれば示していきたい。ICT機器に関しては継続して管理をしっかりとしていきたい。	C 74%	A 生90% 保86%	第1回の時よりも数値は下がってしまったが、昨年度に比べ、職員のクロームブックやgoogleのツールの使用スキルは大きく向上している。特にgoogle meetやgoogle classroomは昨年度のように使い方を説明しなくても各職員が自主的に使用している。	
		2 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	ICT機器を活用した業務改善を昨年度より多く試み、ICTを活用した業務改善を行っていると感じる職員を80%以上にする。	グーグルチャットを用いたの情報共有を推奨する。また、学校評価・授業評価アンケートをスプレッドシートを用いて行う。さらに観点別評価に対応したミスが起こりにくいシステムやルールを構築する。	A 97%	A 生85% 保98%	グーグルチャットについては使用している分掌もある。メリット・デメリットについて考えていきたい。観点別評価の成績処理については、スムーズな処理ができた。2学期にはマニュアルを修正してよりわかりやすくしていきたい。	A 93%	A 生92% 保98%	観点別評価の入力をスムーズに行うシステムは構築できたと思う。来年度はさらに改善していきたい。学校評価・授業評価アンケートは職員・生徒・保護者がグーグルフォームやスプレッドシートになれてきたこともあり、より速く処理できるようになった。
VII 特別な支援を要する生徒への適切な対応を行っていますか。	1 学校への適応等その他で悩んでいる生徒、特別な支援を要する生徒に適切な対応をしていますか。	悩みを抱える生徒及び特別な支援を要する生徒を90%以上把握している。また、把握した生徒については全てについて適切な対応に取り組んでいる。	生徒理解調査（年3回）の内容を、生徒が学校や教職員に悩み等を訴え易いよう継続して見直す。また、本校教職員だけでなく、SCや外部機関との連携を通して、より適切な対応が取れる体制を整えていく。	A 100%	B 生85% 保83%	外部機関との連携の機会が増えて、昨年より改善できている。今後も生徒と保護者へのこれらに関する情報発信・提供の頻度を高め、その方法を工夫して、本校の取り組みについての理解を高めていく。	A 100%	B 生88% 保87%	第1回点検・評価よりも僅かではあるが、数値は向上したことから、概ね理解していただけと考えられる。今後は、これらの取組を定着させ、今後の本校の指導方法を、根付かせていくための方策を考え、取り組んでいく。	